

平成31年度 4月 8日(月) 1学期始業式・校長講話

おはようございます。

昨年の始業式でした、同じ質問をしてみたいと思います。

あなた方の、お兄ちゃん・お姉ちゃん、もしくは弟・妹、つまり兄弟姉妹で松高に通っている・通っていたという人、手を挙げてください。

次に、お父さん・お母さん、もしくは叔父さん・叔母さんが、松高の卒業生だという人、手を挙げてください。

ではお祖父ちゃん・お祖母ちゃんが、松高の卒業生だという人、手を挙げてください。

松浦高校は、地域にとっても・あなた方にとっても、大切な学校です。自分って、結構いいヤツじゃないかと自分を好きになり、松高も結構いい学校じゃないかと好きになり、自分に自信を持ち・松高に誇りを持ち、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。午後には、新しく新入生も入学してきます。1年生のよき先輩としての振る舞いを期待しています。

地域の人も、あなた方を見ています。

あなた方が、お祖父ちゃんやお祖母ちゃんに席を譲ったり、手を貸したりすれば、「松高生は、優しいかねえ」と言われます。あなた方が図書館で騒いだり、夜遅くまでふらふらしていると、「松高生は何ぼしょっとかいな」と言われます。

小さなことと思うかもしれませんが、会社の社長さんがあなた方の様子を見ていて、「ぜひ松高生を採用しよう」と思ったり、「いや、これなら松高生は採用出来んな」と思ったりするわけです。

学校によっては、学校を訪れる外部の方に対する挨拶を、徹底している学校もあります。訪問者の中に、会社の人事担当の方が出て、その方が訪れた高校の生徒の様子を見て、好印象を持ってもらうように、という理由からだそうです。

一人ひとりが松浦高校という看板を背負っています。あなた方一人ひとりが、松浦高校の今とそして未来を作っていくのです。責任は重大ですよ。

松浦高校の校訓は、『自己開拓に全力を注ごう。正しい人間関係を築いていこう。よき市民性を身につけよう。』ですね。今は、松浦高校はあなた方の学校ですが、五十数年にわたり、あなた方の先輩たちが頑張って作り上げてきた学校です。この校訓にも、そんな先輩たちの思いと願いが込められているように思います。

そして、この松浦高校も毎年、新しい世代に受け継がれていきます。次の世代にきちんといいバトンを渡してあげられるように、しっかりと高校生活に取り組む義務が、あなた方にはあると思っています。そしてあなた方もいつの日にか、結婚子どもが生まれ、その子どもも成長する日が来ると思います。その時に、「松高はよか高校やけん、やっぱり松高に進学せんね」と、自分の子どもに勧められるかどうかは、自分自身がどのように高校生活を送るかにかかっています。

人口減少が大きな問題として取り上げられて、各地域で深刻な問題となっています。山間の小学校や中学校では、生徒の数が減少し、学校が廃校になるというニュースを耳にすることが増えました。自分の母校がなくなってしまうことは、すごく寂しいことです。そうならないためには、先生方・生徒みんなが協力して、松浦高校を元気ある学校にすることが大切です。

先日、友田松浦市長にご挨拶に伺いました。その中で、福島の子エビが話題に挙がりました。福島の子エビは、東京の築地市場でも最高品質と評価されるまでになっているのですが、その決め手は、人間の都合で子エビの世話をしない、ということだそうです。あくまで子エビの立場に立って世話をします。子エビは夜行性なので、その習性に従って、餌をやったり世話をしたりする。人間側の都合で、時間やスケジュールの調整をしないことがポイントだと、伺いました。

あなた方も、自分の都合ばかりを相手に押しつけるのではなく、相手の立場に立ち、相手を思いやって、みんなが気持ちよく過ごせる松浦高校を作してほしいと思います。

私は、松浦高校が大好きです。そしてここに通う生徒みんなが・ここで働く先生方みんなが、これまで以上に松浦高校を好きになってもらえるように、私自身、今年一年頑張ろうと思っています。

ぜひみんなも、これまで以上に自分を好きになり、そして松高をより好きになるために、今、目の前のもの一つ一つに、精一杯取り組んでほしいと思います。

私の話は以上です。